

城端地域 会議録

件名	城端地域提言実現検討組織による会議		
日時	令和元年7月10日（水）19時～21時30分	場 所	城端庁舎2階 202会議室
出席者	検討組織メンバー：14名、まちづくり推進係：2名		
内容	①各種資料の説明 ②提出された企画書案の説明 ③まちづくりの方向性の検討		
概要	<p>◆事務局（市）から、事前送付資料および当日配布資料の説明</p> <p>◆メンバーの坂岡さんから、自身の提出資料について補足説明</p> <p>・年代別人口の推移を見ると、若者に人気がない地域であると言える。どうしたら若者たちが城端に住んでくれるのか、という点が最大の課題である。</p> <p>◆企画書の説明（概略のみ記載、提出された企画書の内容は添付のとおり）</p>		
	<p>○中島 満さん</p> <p>図書館機能の重要性と城端図書館の良い点。良い機能を伸ばす方向で施設に組み込むべき。図書館司書と学校図書館司書とを兼務し、学校図書館との連携を図ることも考えるべきではないか。</p> <p>○川田真紀さん</p> <p>まずは、地域内の連携による循環や自給自足。未来に向けて必要な機能を、負担の少ないやり方で。住民が関心を持ち、集う場所であるべき。この会議のことをどのようにみんなと共有できるか、住民の関心の持てる工夫が必要。</p> <p>○水上成雄さん</p> <p>にぎわいとなる施設とは誰に向けた施設か。住民利用の施設か、来訪者向け施設か？併せて経済活動も出来る施設か？必要床面積で青写真を描き、維持管理費を算出してみるべき。現庁舎再利用の再考は不要論か？</p> <p>○山瀬悦朗さん</p> <p>誰がどのように利用するのか。近隣エリアで必要機能をカバー出来る施設があるのではないか。交流人口を呼び込むには、現在はない目玉が必要。現庁舎利活用の可能性を検討すべき。</p> <p>○清部一夫さん</p> <p>住みたいと思える地域にするために、どういう仕組みを作れば上手く機能する場となるのか、メンバーで徹底的に勉強すべき。子どもたちに地域の良いイメージを残してやりたい。</p> <p>○長谷川邦子さん</p> <p>観光客が困らない、という観点が足りない。住民の愛着に繋げるためにも、会議の流れや検討内容をもっと外に発信して、経過を伝えるべき。城端地域の住民の理解と参加意欲、期待感を作る努力が必要。</p> <p>○水上和夫さん</p> <p>八方美人型施設は続かない。図書館は、ニーズを反映した目的対応型とするべき。学習スペースの設置及び時間指定の貸室にして民間活力を利用した学習活動の拠点とする。</p> <p>○齊藤千枝さん</p> <p>新設するのであれば、現在より不便にならうこと、誰でも集うことの出来る場所であることの検討が必要。城端ならではの料理教室、城端別院のもてなし膳などの資料を読み解きながら再現してみるなど。</p> <p>◆質疑応答（→…事務局発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●この会議は、いつまでにどうするのか、という点が分からない。また、メンバーが毎回入れ替わり、どんなメンバーが参加しているのか不明瞭。 ●これまでの検討会議のメンバーはどうなったのか知りたい。自分たちは提言書を作るまでと言われてきた。提言の検討を始めた時から、この会議の落としどころはどこなのかということが疑問であった。 ●提言をまとめたメンバーとして、検討の経過の説明はしっかりと伝えたい。 ●元々は市からの要請で集まったもの。いろいろな検討材料を踏まえ、積んでは崩しの検討を重ねながら、この提言をまとめたはずである。そして、今年度、提言実現の検討に入る時に、今後の参加の意向確認があって、残ったメンバーが名簿にある8人というこ 		

とである。

- 城端がこれからも元気にやっていくためには、提言にある複合交流施設が必要。現庁舎の利活用も考えられるだろうが、魂のこもったものにしたい時は、既存施設を継ぎ接ぎしたものよりも、大きさは別として、土台から思い切って新しくして、みんなが来たくなるようなコンセプトの施設にしたいとの思いで、この提言となった。
- 今までのメンバーよりも、知見のある人を加えて、建物全体のコンセプトを考え、提言を具現化していく目的で、検討会議のメンバーがそれぞれ周囲にいる知見のある人を紹介して、この提言を深掘りしていこうという方向で集まってもらったのが今回のメンバーになっている。ところが、そのメンバーから「新しい建物は不要」「今ある建物を活用する」などと提言を覆すような意見を言われると非常に困る。もし、今の会議に、検討会議メンバーが一人も居なかつたら、この提言は無かったものになるかもしれない。卓袱台をひっくり返されるようなことに成りかねないことから、検討会議メンバーが提言した責任で残っているということ。
- この会議は何をする場なのかということが明確ではない。今回、提言内容とは全く別の企画も出されているが、その辺の話は提言検討の折に既になされている。提言では、現庁舎の外、複数の施設を取壊して1つにまとめた上で、新しくコンパクトな建物を建てる内容になっていることは必ず押さえるべき。市有施設を壊す、残すという話がどこまで進んでいるのかを明示した上で、今後の検討を進めるべきと考える。
- 既にご存じかもしれないが、市の赤字（借入金残高）は435億円ある。そのことを踏まえると、事業計画を立てて考えていいかないと、話がまとまらないのではないか。再編対象施設が現在451件あるのが、今後500件になる可能性も考えられる。市は、自分たちが思っているほど余裕がないはずなので、どんな人がどれだけ利用したら上手く回せるのか、というところまで検討する必要性を理解してほしい。それだけ南砺市は追い詰められている状況にある。
- そんなことは初めから分かっている。城端の提言は、城端にある公共施設のいくつかを壊して、その1/5若しくは1/6程度の面積のコンパクトな建物を建てる事としている。それなのに、外の3つの地域では、既存施設の取壊しを提言で全く諱っていないのに建物を建てたいと、話の合わないことを言っている。我々はそうではない。
- 合併して15年。合併直後に取組むべきことがあったはずだが、身を切る改革を避けてきた。15年間、臭いものに蓋をしてきたのだ。
- 城端地域は市の中で、目立つというかメインとなるようなものを作れば良いのであって、切羽詰ったようなことをすべきではない。形で示せば良いだけである。
- 形で示すプロセスがすごく大事で、地域住民の皆さんに自分事として理解してもらうことが必要。議論の時間が少ないようだ。
- 今後の会議の進行について、2週間に1回程度の頻繁なペース、そして、その都度今回のように宿題が出されるのか？毎回決まって参加する方もあれば、入れ替わりで参加するような方もあって、なんだか不思議な会議に見える。
- 来年の7月には城端の庁舎跡地利用については、決着が付いていなければダメなのであり、今年中には、この提言に基づいた施設のアウトラインを委託する予算や、コンサルタントに図面を書いてもらったり、概算の建設費を見積もってもらったりと、今後の進行のイメージはこんな感じで考えている。
- 市はそもそも赤字なのだから、確実な運営が出来るように事業計画を立て、管理運営について検討しなければならないのではないか。
- 我々も危機感を持って考えている。地域住民の拠り所をどうするのかが、この会議の最大のテーマである。
- 黒字とか赤字とかという話が前面に出ると、何もしない方が一番いいということになる。但し、それでは暮らしていけない。
- もう一度「最適化」を考えなければならないのでは。若い人たちにふさわしい物なのか？この後やってくるであろう、この施設の維持等に係る費用負担が税金として圧し掛かって来るという現実が心配ではないか。
- 我々のえた「新しい建物を建てる」という提言は、ナンセンスだというのか？それなら、何か代案はないのか？
- 代案ではなく、どのように運営していくのかという話が先だということ。
- だから、どうやったらスムーズな運営が出来るのかということを決めていくのに、プロの人を頼んで、今後の検討を進めていこうとしているのではないか！
- 今回のこの提言の内容に、あなたの採算性だけに特化した意見が合うかどうかは分からない。
- 自分は、その辺りの能力はあるつもり。皆さんの力になりたいが、必要ないのであればこの会議には参加しない。

- これまでの検討会議メンバーでは実現に向けて話を進めるのが難しいので、我々とは違う、別の視点が必要と思ったから、彼に加わってもらうよう声を掛けた。この提言を実現していくにあたり、どのように進めていけばよいか分からずにいる中で、強力なバックアップが欲しい。
 - 市は大赤字を抱えているから、城端のような提言はナンセンスだと言いたいのか！
 - 提言したことが、全く市に伝わっていない。
 - この複合交流施設をどのようにしたいと考えているのか、一言で言ってほしい。
 - 事業計画ありきの提言に戻すべきと考えます。
 - 事業計画、事業計画と言うが、具体的にどうしたいのか聞かせてほしい。
 - コストのかからない内容に計画を戻すということ。この提言には問題が2つあって、1つは初期投資にいくらかかるのか分からないこと。2つ目は、経常経費がいくらかかるのか分からないこと。何にいくらかかるのか全く分からない状況で、あれも欲しい、これも欲しいというのはいかがなものかと思う。
 - コストについては市に確認すればいいのではないか！市は、この提言に対する予算や経費試算などを全く示していない。
 - 事業計画を立てる、ということは収支が明確になるので、それはそれで良いことであるが、事業計画だけでは判断できない部分もある。
 - 民間会社と同じ考えで、行政の仕事をやれと言っているようなもの。
 - 財政が逼迫しているこの状況では、民間会社と同じように事業計画を立てて取組むことは、非常に大事なことと考える。
- 市として、庁舎再編に係る市民との意見交換会や提言検討の折の意見交換の中で、1地域5億2千万円の財源を確保して覚悟をもって取組むことを言っている。このお金は初期投資には使えるが、維持管理費には使えない。市民センターと図書館部分の維持管理費は行政で対応することになるが、それ以外の部分についてはどのように管理していくのか、計画を立てて実現の可否を考えていくことは、当然必要と思われる。
- 市で建てるということは、公共施設再編計画のリストに必ず載ってくるということ。どうしたら長い期間維持していくのか、市の財政状況に関わらずに、賑わいをどうやって作っていくかを皆さんで議論していただきたいというのが、市の想いである。
- 5億という数字が一人歩きするので言ってほしくなかったが、旧4町に5億ずつ配るような話は止めた方が良い。いらない町にはいらない。
 - 5億配るようなことを言うから、またホールを建てようなどという話が出てくるのだ。
- これまでの説明の中で申し上げてきたことを確認しているだけで、それぞれの地域に「5億配る」とは全く考えていない。本当に何が必要なのかということを考えていただきたい。
- 城端から公共施設がなくなると困る。税収が減るのは困るが、赤字が黒字に変わることではなくても、これまでと同じように行政サービスを受けたいからこのような提言になっている。
 - 行政だけでやる場合は、本当に最小限のものにしかならないと考えている。そこに、提言にあるような様々な機能を持たせて、賑わいのある施設を作る時は、そこで事業収益を上げられるようなものにしなければ実現できない。
 - 事業計画が上手く立てられないと、収益が上げられない。
 - 提言には自分たちのやりたいことをいろいろ詰め込んだ。今後は、当然、その提言の実現に向けて、やりたいこと一つひとつの事業計画を立て、実現できるかどうかの検討を進めていくということをしなければならない。数字だけ見ると、やらない方が良いという話になるのかもしれないが、そうではない。
 - 提言を作りっぱなしにしないで、実現に向けた話し合いをするのが、この場でしょう？
 - 提言実現のためには事業計画は必要だけれども、赤字とか、税収が上がらないとかいうことが先走っている。何が必要で、何がムダか、住民が見極めることが大切。ムダを除いた上での提言実現に向けての事業計画であるべきで、この事業計画は城端地域だけに限らず、市全体の事業計画であるべき。
 - 今のままではハコモノを作った時に、それをどのように運営していくのかというのすごく不安である。
 - これから城端をどうするのか、という議論がここでは大切である。
- 次回は、まだ提出されていない方からの企画書の説明をいただいた上で、人口減少や高齢化などの今日の議論を踏まえた今後の城端のあり方を検討していくこととしたい。

◆次回会議

日時…8月1日（木）午後7時から
場所…城端庁舎2階 202会議室

内容…1. 提言の実現に向けた各自の企画案、あるいは考えの共有の続き
（各メンバーより発言いただく予定）
2. 今後の城端のあり方の検討
3. 会議の名称について

グループ名： 図書館

① 必要な機能の提案の背景や目的

- ・市の公共施設再編計画（H28.2）で、城端図書館（872 m²）は勤労青少年ホーム、公民館等との複合化を示し、短期5年間に利用者が3割減となった場合は、統合を進めるとしている。
- ・2016（H28）年3月議会で市長は、「市民アンケートをふまえ、30年間維持する方針に変更した。将来的に1箇所に集約する計画にはなっていない」と答えている。
- ・図書館には資料・蔵書と図書館員と施設が必要で、「図書館の三要素」という。その貢献度は、資料・蔵書が20%、図書館員が75%、施設が5%といわれる。

② 誰に対して向けられたものか

- ・南砺市は合併したことにより、現在5館となっている。図書館には司書が必要であり、司書のいない図書館は有り得ない。井口・上平・利賀の行政センターに図書サービスコーナーが設けられているが、全く機能していない。
- ・蔵書冊数、購入図書冊数、貸出冊数も県下で誇るべき状況にある。市民に身近にある図書館の強みでもある。
- ・まちづくり検討会議に提示された「年齢別貸出統計」によれば、全市的にも城端図書館においても、年度別には同じ割合であり、年齢別にも同じ傾向が見られる。なお、城端の特徴として、小学生・中学生の割合が多く、60歳以上が若干低くなっている。

	市全体	城端
小学生	13.28%	26.85%
中学生	2.47%	5.55%
60歳以上	36.35%	31.69%

小中学生が多いのは、現在の図書館の位置が通学路のためと思われる。新図書館も同じ位置であり、その傾向は変わらないと思われる。

③ 提案をどのように実行するか

- ・まちづくり検討会議で議論されたように、城端図書館と市の中央図書館、県立図書館との連携、役割分担をふまえることが必要。

④ 提案を実行するために必要なもの

- ・小中学校の児童生徒は、図書館司書から資料の使い方、探し方を覚えて行き、その力は一生自分のものとなる。南砺市の学校図書館司書助手の配置状況は、砺波市や小矢部市に比べても遅れており、1校ごとに専任配置し、配属時間の延長も必要である。そこで城端図書館の司書が小中学校の学校図書館の司書も兼務し、連携をはかることも考えるべきではないか。

グループ名 :

①必要な機能の提案の背景や目的

- 今の提言には、図書館が図書室の規模になっているけれど、図書館の中に他の機能があるようなレイアウトにはならないのだろうか。
- 行政窓口、公的サービス、民間サービスを壁のない連携しやすい場所におく。
- 文化財の保存、修繕の工房については、この時代を生きる者として責任をもって次代に引き継げるようになら。
- 域外への発信も大切だが、地域内の循環や自給自足が先な気がします。地域の農林や、資源の再利用、エネルギーの自給、知恵と文化の伝承などなど。
- バリアフリー対応のまちづくり

②誰に対して向けられたものか

- まずは住民が関心を持ち、集う場所。
- どんな機能があるかによって、利用する人数は違うけれども、図書館については最低でも現状維持。

③提案をどのように実行するか

- 古い既存施設の解体は、行政の体力のあるうちに速やかに実施して身軽になる。
- 必要な機能を、現在の行政センターで工夫しておさめることはできないか、再度検討。
- 関心をもってもらうために、必要な機能を、住民や生徒に調査する。特に子どもが関心を持ち、そこで何かしたいと思ってくれる設問。

④提案を実行するために必要なもの

0

連絡事項

この会合の最終目的が何かよくわからない。

①必要な機能の提案の背景や目的

・「城端庁舎が市役所としての機能がなくなった場合、城端地域のにぎわいをどうしてつくるか」が、議論の出発であった。それに「公共施設の再編」と絡めて検討したのが、まちづくり検討会議の提案であると思う。従って、行政センター・美山荘・勤労青少年ホーム・商工会・図書館の機能がしっかり代替できる複合施設であること。

ただし、「にぎわい」となる施設とは、何か。

・住民が利用する施設か。住民以外の外来者がくる施設か。経済活動もできる施設か。

②誰に対して向けられたものか

①の基本に基づけば、老朽化施設の利用者が、継続して利用できること。できうれば、現在より、利用しやすく快適であることではないか。

全市的な観点・・・基本的に城端地域住民が対象。ただし、施設利用は、開放。

③提案をどのように実行するか。

必要床面積で、青写真を描き、建設費・維持管理費等を算出してみる。

- ・建設可能か • 最小必要床面積は
- 老朽化施設の撤去費は

④提案を実行するために必要なもの

- ・管理者は、誰か。 A : 公設公営、B : 公設民営、C : 民設民営
Aが望ましい。
B : 指定管理・・・受皿は誰? B, C ; 会社運営(利益の出る事業)
• 施設使用料は有料 • 相談は無料
• 物品販売といつても 利用者は誰?

⑤その他

- ・旧庁舎の再利用の再考は不要論か。委員のメンバーも変わった。
- ・6基の曳山が入る施設・・・地元ではそのような議論もあったというが。
現曳山会館の入りや維持管理費、収支は?
• 織館の管理運営状況は

→ 参考になると思う。

7/10欠席

城端地域のまちづくりの提案書について

2019/07/07

山瀬悦朗

① 新築の建物で必要とされている機能の見直し（人口データをもとに）

今回から参加したので提言については説明を受けましたが必要性を感じません

誰がどのように利用するのかデータをもとにしっかり検討されたのか疑問です

5年後、10年後の年代別人口を考えると利用者はごくわずかと思われます

また近隣エリアで必要機能をカバーできるモノはないのか？

小学校、児童館、城南屋内グランド、JAなんと城信支店

② 外からの交流人口を駅からその場所まで呼び込むという構想ですが、何があつて外から的人がそこに来るのかわかりません 城端駅が交通のハブになって観光協会もおかげでコンシェルジュ機能は城端駅に必要な機能です

そこに交流人口を呼び込むには現在にはない目玉が必要だと思います 先の会議で提案があった6台の曳き山を常設展示する場、併設して曳き山を後世に残すために修理している現場を公開できる場が城端の目玉ではないかと思います

③ 現在の庁舎の利用は出来ないのか？

現在の城端庁舎を2階建て or 平屋に減築しての利用も可能と思われます

曳き山の常設展示を一部の2階の壁と天井を外して吹き抜けでの利用も出来ないか

まとまっていない意見で申し訳ありませんが、先の提案をもとにこのまま先に進めることは疑問です 是非見直しの検討をお願いします

グループ名：

①必要な機能の提案の背景や目的

城端の人口減が進んでいる。

人口が少なければ一人あたりの施設維持負担も大きくなる(負の遺産)。

祭も維持できなくなり、城端の特色が失われ、人が離れる負のスパイラルに陥る。

住みたいと思えるような町にするために、コンセプトのはっきりした、低コストで高機能、魅力的なソフトウェアを組み上げたい。

②誰に対して向けられたものか

現庁舎は国道304号線沿線にあり、街の中心にあるだけではなく、五箇山にも必須のルート上にある。別院や小学校など、リンクしたい施設とも近く、地の利が有る。

近隣市町村の来街者(観光客を含む)に街の魅力&利便性を伝達し、リピーターとなるよう働きかける。

人と人との出会いことで、住民が気づいていなかった魅力と住みよさを再認識してもらう。

※商工会青年部の催しは将来この町に残る子どもを増やすために必要。

③提案をどのように実行するか

ソフトウェアが最も必要。

街の情報&魅力を一手に発信できるコンシェルジュを配置。有機的に人と人を繋ぐネットワークをつくる。

町の小さな問題はその場の小さな話し合いで解決。運営の意思決定もスピーディに。

上記の実現のために「場」が必要。

具現化には…まずこのメンバーが徹底的に勉強する。そしてジブンゴトに。他人に頼っていてはダメ。

④提案を実行するために必要なもの

将来的に自立するため「道の駅」もしくは「まちの駅」で農産物や特産品を販売。

コミュニティカフェや図書館で、出会いと話し合いの「場」をつくる。

グループ名：図書館検討グループ

①必要な機能の提案の背景や目的

図書館は複合交流施設に入居する際に蔵書を大幅に整理し、目的対応型図書館とする。

蔵書は、①曳山や善徳寺、五箇山文化遺産など、地元の文化歴史コーナー、②健康や子育てなど、健康福祉コーナー、③絵本や漫画など、キッズコーナーなど、目的に応じた図書を充実させる。

全般的な図書は中央図書館、学習書は小中学校の学校図書館にまかせる。

オープンスペースを共有して、読み聞かせや読書スペースとして使用する。

学習スペースを設け、日中は成人（高齢者）向けの生涯学習活動の拠点とする。
夕方、休日は時間帯を決めて塾に時間単位で貸し出す。

②誰に対して向けられたものか

日中は成人（高齢者）が集まり、コーヒーを飲みながら読書できるようにする。

夕方、夜、休日は、親子で読書、祖父母と孫で読書できるようにする。

学習スペースで英語や算数などの塾活動を行ってもらうことで、民間の力を生かした学習活動の拠点とする。

観光客が城端地域の歴史や文化を調べたり、詳しく知ったりできるようにする。

③提案をどのように実行するか

新築する図書館をどのような内容で焦点化、重点化するかを検討し、内容を決定する。

④提案を実行するために必要なもの

すべての本をそろえた図書館ではなく、ニーズを反映した目的対応型図書館でよいという住民の皆さんとの理解。

グループ名：

①必要な機能の提案の背景や目的

- ・新複合交流施設は大変夢がありいろんな世代の交流の場になると期待する。
- ・昨年8月10日の会議録P151にある『街に集めるのも一つだが～中略～バスに乗る機会を作る』の意見に賛同。
- ・これだけで、城端のにぎわい作りになるか？アンケートにもあったが、人の流れ（特に観光客など）城端駅から304号線で行政センターに繋がる所、城端駅から野田、御坊下から行政センターに繋がる所をどのようにするかも大切。

②誰に対して向けられたものか

- ・観光客が立ち寄りやすくすることに重きを置く。
現状からみて、住民が平日に集う場とするのは周辺の高齢者。土・日にイベントが無くとも足を運ぶ人がどの程度になるかが疑問。
- ・図書館は、必要とする人の利便性を大切に。蔵書内容や開館時間も検討。

③提案をどのように実行するか

- ・今回、検討委員が新たに多く加わった。昨年の記録を見ると、とても熱心に、頻繁に会を持たれているのに、残った人が8人。実現にむけて委員が大幅に変わった理由があるのか？まずは、委員各自がその気になることが大切！
- ・会議の流れや検討している事を、もっと住民にも伝え関心を持ってもらう努力必要。結果だけを知らせると、不満につながりやすく住民の愛着が生まれない。

④提案を実行するために必要なもの

- ・より多くの人が利用しやすい物、利用したくなるものにしないと賑わいは生まれない。住民（旧町だけでなく、5地域）の理解と参加意欲、期待感を作る努力。

グループ名 :

①必要な機能の提案の背景や目的

- 役所窓口や城端図書館等を集約した施設を新設する場合、現在より不便にならないことを考える。
- そこへ行けば地域の情報を集めが出来る場所とし、世代を問わず、そこに行けば暮らしやすくなるような仕組みを考える。→交流することの楽しみ
- 観光客等がまち歩き出来るような仕組みづくり。複合交流施設をスタート～ゴールとし、城端のまち中を巡ってもらう。

②誰に対して向けられたものか

- 地域で暮らす人、城端以外の南砺市民や市外からのお客様。障がいのある人の働く場。誰でもが集うことの出来る場所であり、その場所があることで、その人の生きる力や喜びにつながる。

③提案をどのように実行するか

- クッキングスタジオ、城端ならではの料理教室、市民が講師、城端別院でのおもてなし膳などを資料から読み解きながら再現してみる。
- 飲食スペースを設置し、蕎麦打ちの上手な方が城端にもいらっしゃるので、手打ち蕎麦を手軽な価格で提供する。そこへ行けば美味しい蕎麦を気軽に楽しむことが出来る。
- 若い人に城端の歴史を語り継ぐ。

④提案を実行するために必要なもの

- 財源、運営母体、組織、人

連絡事項

0